

あびの文化

発行人 大野 山
美崎 高野
我孫子市 250-23
04(7182)
0861

臨時総会開催される

議案「嘉納治五郎銅像建立の件」を可決承認

1月7日(日)我孫子北近隣センター(並木)1階多目的ホールにおいて当会の臨時総会が開催された。当日は会員数102名のうち、27人が出席した。臨時総会にあたり事前に会員に総会への「出欠」と議案に対する「賛否」を問うたところ、賛成62名、反対3名、未回答(返信なし)が34名だった。3名議長を含むは当日出席の上、当日賛否を決定するというものであった。

臨時総会の進行は次の通り。

(議長の選任)

定刻に至り司会の伊藤一男副会長が開会を宣し、「本日の臨時総会は、欠席者の賛成票を加え、定数を満たしている」旨を告げたのち、美崎大洋会長が議長に選任された。続いて議長挨拶ののち、議案の審議に入った。

(議事経過の要領及びその結果)

議長は、議案「嘉納治五郎銅像建立の件」についてこれまでの経緯と内容を説明したのち、出席者から質問を求め、それぞれに回答した。さらに出席者に対し意見を求めた。その後、議案について議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決承認された。

事前に「反対」と回答した会員の当日の出席はなかったが、反対3名のうち2名がコメントを記載していたので参考までに披露すると「建立するなら銅像より顕彰碑の方が適切ではないか」と思っています。「嘉納については市教委の説明板で十分かと思えます。別荘があつただけで何か我孫子の為に大きな貢献をした訳ではないので銅像までは不必要ではないでしょうか」というものだった。貴重な意見として総会でも披露した。

五月十九日(土)に文化講演会を開催

日時 5月19日(土) 13時半～15時半
場所 我孫子市民プラザ 我孫子市4-11-1
あびのシヨッピングプラザ内3階

講師 真田 久氏(筑波大学 体育系教授)

演題 嘉納治五郎とオリンピックムーブメント(仮題)

講師経歴 1981年筑波大学大学院体育研究科修士、1982年福岡教育大学教育学部助手、1996年筑波大学体育科学系講師、2008年体育系教授、2012年より2018年まで体育専門学群長。

古代から近現代のオリンピックに関する歴史研究や嘉納治五郎の思想と行動に関する研究に従事しつつ、国内外のオリンピック教育に関する実践的研究を進める。JOC公認筑波大学オリンピック教育プラットフォーム事務局長、日本オリンピックアカデミー(JOA)理事・副会長、オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議(スポーツ庁)座長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与、同組織委員会文化・教育委員会委員。

◎例年、文化講演会是我孫子市教育委員会と共催で開催しているが、当日は講演会場(多目的ホール)隣のギャラリーも使用可能となり、嘉納治五郎関係の展示を実施する予定。

「嘉納治五郎銅像建立基金」の振込口座を開設

寄付金、募金の振込先、入金先として今般、次の金融機関に口座を開設しました。多くの金融機関がありますが、今回事業の目的、趣旨から郵便局のほか地元の方から(朝日新聞の記事を読んだなど...)預かった寄付金を入金しました。

◆振込口座名 「嘉納治五郎銅像建立基金」

○郵便局

口座記号番号 00290-6-139276

○京葉銀行我孫子支店、普通預金、口座番号 3252211

○千葉銀行我孫子支店、普通預金、口座番号 3830922

○千葉興業銀行我孫子支店、普通預金

口座番号 1129816

「嘉納治五郎銅像建立委員会」発足

2月12日(月)臨時役員会が開催され、銅像建立事業計画書(案)が示され、本プロジェクトを実行するため、委員会を発足させました。内容は①渉外担当②募金担当③事業担当(銅像の作製以来、台座の作製など)④広報担当の4つでそれぞれ業務を担当します。ご協力頂ける会員の参加をお待ちしています。

「やぐらプロジェクト」完了のお知らせ

2月21日付け星野我孫子市長名で「植樹完了のお知らせ」が届きました。今回の「やぐらプロジェクト」



植樹箇所 (ヨウコウザクラ) →
(水の館駐車場南側多目的広場内)

(費用3万円)に對して当会としては昨年9月から会報で応募を呼びかけ、結果的に会員16名から申し込みがあり、2月10日に予定額に達しました。当会の名前が書かれた樹名板のついた「ヨウコウザクラ」は水の館駐車場南側多目的広場内に植樹されました。今回のプロジェクトに参加頂

いた方は左記の方々です。(樹名板は7ページに掲載)改めてご協力に感謝します。(敬称略、五十音順)

芦崎、飯高、伊藤、稲葉、高、越岡、小島、齊藤、佐々木、渋谷、戸田、藤井、牧田、美崎、村上、吉田

リレー連載「白樺派と私」
『雑感』

芹澤 正子

はじめに

若いころ読んだ、我孫子市の唯一人の国会議員の加瀬寛氏の著書『寒流暖流』の中の文言が常に私の中にある。1982年発行。

最後の「第7章」にこうある。

【「一隅を照らす」という事が、私は政治家の最低条件だと思っている。少なくとも自分の住んでいる地域や環境で奉仕し信頼されなくては、政治家の出発はないと思っている。しかし徹底的に地域や住民にサービスしている人は少ない。自分の意見をオブラートにつつんではいけない。意見や立場を明確にすべきである……】

私が住んでいる千葉県我孫子市は、【蒲公英を咲かせて利根はひろこれり】の誰やらの句の通り、北辺を利根川が流れ、筑波が紫色の山容を写し、春ともなれば、すみれ、たんぽぽが長堤を色どる。南辺は手賀沼、夏は行々子が鳴き、冬は枯れた真菰に鳴の番いが居眠りをする。漁師の網打つ音もひびき、時には雁も飛ぶ。柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤が住み、杉村楚人冠や嘉納治五郎が永住した湖岸。文化勲章の岡田武松や柳田國男が育つた利根川岸。文化資産も豊富である。この自然と、この文化の融合した「自然と文化の教育都市」。町の為政者も、町造りの目標を此処に置いた。」

又、周囲への多くの感謝の言葉の「あとがき」も印象深い。

【政治家というものは、多くの人々に支えられて生きてゆく職業である。自分の力などとはつゆ思ってはならない立場なのである。】

我孫子に転居

近い将来、我孫子駅が地下鉄の始発になるとの大きな新聞広告に魅力を感じ、私達は結婚して4年目の昭和49年に居を移した。当時の手賀沼は沼底まで透けて小魚の泳ぐのがはつきり見えていたし、夏の平日には

公園内にある市営プールにもよく出かけた。昼近く、帰路の鈴木屋脇の線路下の坂道のトンネルは危険だったのである。「圭さん！眠っちゃ駄目だよ。落ちたら死んじやうよ」と、後ろの娘に声をかけながら車道の端を自動車と一緒に走るのである。やがて車を購入したので、この危険な道路の事は忘れていった。

南北自由通路を作る会

駅近くで南北に通じる道路は無く、駅舎では夜中は閉鎖される。平成13年に、議会でも南北自由通路を検討すると聞いた。それで、千人以上の署名を集めて「南北自由通路を作る会」の発起人代表になり福嶋市長に届けた。これが私の政治活動のスタートだった。土木工事だからとて、非難されながらの署名集めだったが、加瀬先生の書の「なんと言われようが、地域のために働くのだ」という信念が私の心を支えた。

結局、市議会では1票差で不採択となり、現在も市民は駅構内を利用して貰って南北を往復している。更に、我孫子駅ホームに、まだエレベータは無い。一日も早い設置が望まれる。一昨年の12月議会の本会議で私が質問した時には、星野市長は「JRとまだ交渉中だったが、ようやく予算がつく。完成すれば近隣では最後の設置となる。車椅子の人達の「エスカレータを逆走させての不自由な乗り降り」はようやくなくなると。

白樺文学館

12月24日(日)、久しぶりに白樺文学館の白樺サロンに出かけてみた。この日はクリスマス特別企画で「朗読とピアノのコラボレーション」。市民スタッフによるピアノの演奏と朗読を味わい、最後に、稲村学芸員がテノールでクリスマスにちなんだ歌を3曲披露。一階の棚には、おんた焼き(残り3点)と、浜田庄司の窯(現在は次男とその子が継いだ)からの益子焼の器の展示・即売があった。エレベータで上がった二階の壁面には、30年2月迄というバーナード・リーチの書簡が奥のほうの部屋までぐるりと展示されていた。

白樺文学館については、忘れられない事がある。

「ふれあい塾あびこ」は、多彩な顔ぶれの講師を招き、様々な勉強をしている。参加費700円で、一回ずつの申込みもある。

平成28年9月。ホテルニューオータニの「エクゼクティブハウス 禅」の当時支配人の佐藤智子さんに「講演いただいた。その講演にあたり、我孫子市に下見に來られたと言う。その時の白樺文学館での職員の対応が大変良かった。たまたま団体客が居合わせ、それを踏まえてのさりげない気遣いぶりに、我孫子市は素晴らしい所だとまで仰って頂けた。講演をお聴きするまでもなく「エクゼクティブハウス 禅」は、ホテルインホテルとしての最高級のホテルである。もてなしの様子や、日を経てお客様から思いがけない満足・感謝の言葉を受けとつた事など、に「こやかな笑顔の佐藤さんの話は、謙虚な言葉の中にもスタッフ大勢を纏めている凛とした知性を感じられ、お客様には、常に、ホテルに「お帰りなさいませ」という言葉が相応しいような気配りをしている事が分かり、羨ましく感じた程だった。そういう方に白樺文学館の対応を褒めて頂けた事が本当に嬉しかった。

旧村川別荘

我孫子市指定文化財である旧村川別荘は、東大教授だった村川堅固が建て息子堅太郎が守った別荘である。寫眞は旧村川別荘の庭先での、英会話のあとのひと時、無料で部屋を貸していた頃のもの。今はもう部屋貸しはしていない。現在は教育委員会の所管で、毎年春の「ひなの祭り」と、10月には、日暮れの後



に「竹灯籠の夕べ」を開催して、我孫子オーデオファン・クラブの仲間がSP鑑賞会をしたり、ある年には友人の藤井千恵子さ

を秘めていたことは間違いないと思われます。在学中は日本代表、全早大のウイングとして活躍し、その後も数々の国際試合でも大活躍しています。早大ラグビー部監督、ラグビー日本代表監督、などを歴任し、一九八七年に早大教授、二〇〇五年の同退職まで指導者としても多くの若者達を指導し、国際レベルの一流ラグーマンの育成に努めてこられました。中学時代にサッカー少年だった私は、高校時代、体育授業の選択科目にラグビーを選んだのは言うまでもありません。週三日の体育の日が待ち遠しく、毎回真っ黒くなつたスポーツシャツを家に持ち帰って母親を嘆かせるのは毎度のことでした。シャツが大きく裂けたことも少なくなくラフスポーツの面目躍如といったところでした。私は小柄だったこともあり、スタンドオフを守り素早く左右に展開するスリルは今以て想像するだけでぞくぞくとするものがあります。日比野氏は国内試合、また数々の国際試合を戦つてきて常に華麗でパワフルなプレーぶりに多くのファンを虜にしました。現役引退後は後進の指導に力を注ぎ、さらに各地での講演会に気軽に参加してラグビーの魅力について熱く語っています。

日比野氏は銀座一丁目にある「陶雅堂」という趣味の陶器店店主のご子息で、高校時代ひそかに「日比野先輩は瀬戸物屋の若旦那にはならないよな」などと仲間内でうわさしたものでした。ついにながら同氏宅は私の家にごく近い場所にあつたことも同氏への親近感を強める要因ともなりました。

「牧野富太郎」(世界的な植物学者)

地面を這いつくばるようにして小さな草や花を観察するその姿に、植物が好きで好きでたまらないという雰囲気はほとぼり出ているような人物でした。東京都練馬区東大泉の牧野宅は素朴な木造家屋を覆い被さるような樹木と雑草に囲まれていました。同じ町内に住んでいた私は未だ中学生の頃で、牧野邸に近い友人のA君宅へ頻りに遊びに行っていました。今にして思えばそのうちの半分は牧野邸を垣根の間から興

味津々で覗き込むのが楽しみでもあつたからでした。時折下駄履きで庭の野草たちを親しげに見て回っていた牧野先生と目を合わすことがあつて、その日は何か得をした感じで帰宅したのを覚えていました。

牧野氏は高知県の生まれ育ちで幼少の頃より植物が何よりも大好きで、少年時代頃から早くも当時未発表の新種を発見し始めていたと言います。青年時代にはさらに新種の植物の発見への探求が旺盛となり、樹木、野草に我が国で知られていない新種が多数存在することを確信し、新種の発見はさらに加速していきます。新種植物の標本にとどまらず、採取した植物の絵を描き、その数は次第に増えていきます。植物分類学の書籍で徹底的に調べ新種であることに確信を深めると、東京帝国大学の植物研究所に標本と観察記録を送り、認定されることで未知の植物の存在と学名が付けられ晴れて「新種」として公表されることになりました。まさに地面を這うようにして休むことなく新種の発見につとめ、終生に牧野氏が発見した樹木、野草は膨大な数に上ります。牧野氏の対象物への徹底したアプローチの手法とその群を抜いた実績は広く認められ、当時植物分類学の最高学府であつた東京帝国大学に教授として迎えられる結果となりました。若い植物学徒には何よりも現地での観察を重視することを教え、積極的に学生達を野外に連れ出し、植物の成長過程、植物の一生について心をこめて温かく厳しく徹底的に教育していました。後年植物愛好クラブを作り、植物大好き青少年達を日本各地に引率して、植物と大自然との関わり、植物の輪廻、採取、標本の作り方などについて懇切に指導していましたが、この会はいつも大勢の植物愛好家達で賑わっていました。牧野氏は幼少の頃から絵が得意だったことも研究に大いに役だつたようです。新種のみならず日本列島で見かけるすべての植物をていねいに描き、その成果は畢生の大書「牧野大植物図鑑」(北隆館刊)として不滅の輝きを放っています。私は永年渴望していたこの書を一九九〇年ころ遂に吾が手にすることが出来、今も蔵書の中心部に収まっています。

植物の挿絵は、種子、双葉、枝葉、幹、実、枯れた状態に至るまでを一画面の中に適切に描き込み、その見事さには感嘆の声を上げるのみです。その植物の誕生から枯死に至るまでの全過程がていねいかつ正確にその説明文と共に記述されているので、実際に手にとつてその植物を観察している気持ちになります。

私は幼少の頃から植物大好き少年で、奥多摩の日原(つばら)で開催される中学の夏季キャンプには毎年参加し、日原鍾乳洞など珍しい自然現象に目を見張ると同時に山林を駆け巡って熱心に植物採集に汗を流したものです。牧野先生が常に声援していかれたように感じていました。

牧野老と言われる年代に入つても植物採集と標本造りは止むことが無く、時折テレビで植物の不思議さや植物の世界について明るく楽しげに語っていたのを思い出します。

私はある年、高知出張の機会があり、業務終了後何はさておき「高知県立牧野植物園」を訪問しました。同氏発見の新種をはじめおびただしい珍しい植物群が園内一杯にのびのびと繁茂しています。熱帯植物も大きく天井を覆い参観者を心豊かにしてくれる温かい空間でした。蛇足ながら土佐が生んだ幕末の勇士坂本龍馬生誕の地も絶好の機会とばかりに見学してきました。

さて東大泉の旧宅はその後整備され、庭園の一角に展示館や事務所が新築され牧野老の業績の一端が展示されています。園内には珍しい樹木や植物が植付けられています。門を入って左側に一メートルほどの牧野博士の胸像が建っているのが特に目を引きます。銅像を囲むように見慣れない笹が生い茂っています。

「スゴザン」という同博士発見の新種の笹で、愛妻すえこさんにちなんで命名されています。いかにも妻思いの同博士の演出ではないでしょうか。同園内には博士による新発見の植物や希少とされる樹木や植物類が所狭しと植付けられていて、植物愛好家には見逃せないまさに植物のオアシスとなっています。植物には「雑草というものはないのだ」と熱く語る牧野博士の

言葉は、物事の本質に考えを及ぼすことの大切さを改めて私たちに語りかけているように感じます。(完)

この「私が出会った忘れられない人々」は好評で、今回で4回目となりました。大変残念なことですが、奥様から菅野哲哉様が1月1日に亡くなりましたと連絡がありました。改めてご冥福をお祈りします。

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第13回

【柏市北部地区の巨樹巨木観察会】

佐々木 侑

十二月十六日(土)、柏市北部地区の歴史ある古刹や鎮守の森を織りなす神社の巨樹観察を実施した。この地区は利根川により肥沃であり、古代から人々が居住し歴史が深い。従って巨樹は、霊木や御神木とされ、人々の生活と関わり物言わず人々を眺めてきたと想像される。

この日の行程：我孫子駅↓北柏駅前バス停↓大洞院↓花野井香取神社↓長泉寺↓善照寺↓布施香取神社↓布施弁天(東海寺)↓久寺家↓つくし野↓我孫子駅

大洞院はもと天台宗寺院であつたが、慶長元年(1596)曹洞宗として鷹山舜岳大和尚が開山したとされている。本尊は阿弥陀三尊。大洞院境内にあるイチヨウの大木は(写真)、樹齢四五〇年以上である。(イチヨウ：幹回り514cm)

花野井香取神社
今から五百年以上前の
文明年間(1469~87室
町中期頃)に造られた鬱
蒼とした鎮守森である。



祭神は経津主神を祀り、近郷の信仰を集めた。(スダジイ4、ムクノキ、クスノキ2、イチヨウ)

長泉寺

ぼけ封じ関東三十三観音霊場として知られる真言宗豊山派の寺院。宝暦十一年(1762)に流山東福寺の末寺として開山し、1800年代後期には仮説学校として利用された寺院である。(ケヤキ2、イチヨウ2)

布施香取神社

委細不詳・本殿には新しく被いが建設されている。神社の側面の彫り物は、東都彫師の石川三之助信光作。(スダジイ2、ムクノキ2)

善照寺

普龍山善照寺は真教が創建した古刹で柏市唯一の時宗寺院。相模国の総本山清浄光寺の末寺。本尊は善光寺如来。銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像(三尊像)は柏市指定文化財。(スダジイ(写真)：幹回り502cm)

東海寺(布施弁天)

東海寺は、真言宗豊山派の寺院。紅龍山布施弁天東海寺と称し本尊は弁才天(秘仏)。寛永寺、江ノ島とともに関東三弁天のひとつ。大同二年(802)空海が嵯峨天皇の勅願により創建したという。平将門の乱の際、本尊弁財天を松の木の上に避難し難を逃れたとされる。本堂・楼門・鐘楼は千葉県重要文化財の指定。(カヤノキ2、ケヤキ3、スダジイ3、ムクノキ2、イロハモミジ、ボダイジュ)コノハヅクが子育て時期に生息

する(写真は鐘楼とカヤノキ)

「短歌の会」(第九回最終選抜作品)

郵便バイクの遠のく音をさびしみぬ
筆まめなる兄逝きてこのかた
納見 美恵子

吾が命その時までにはと思ふなり
孫が未来を語るを聞けば
飯高 美和子

霜の朝垣根に連なる山茶花の
花とつぼみに五線譜を思ふ
山崎 日出男

堂々と屋並みの上に現われし
スーパームーン年の始めに
村上 智雅子

大戦のおもかげもなき守礼門
ハイビスカスのはな咲きにけり
佐々木 侑

病癒え三月の禁の解けし夜に
友と飲む酒胃と胸に沁む
美崎 大洋

腹八分希望も八分義理八分
余裕をもてこの頃思ふ
三谷 和夫

頑なに花びら張りし水仙の
孤高に咲くも群れ咲くもよし
藤川 綾乃

岩手山の山頂近きガラ場にて
一房つつ咲くコマクサ揺るる
藤井 吉彌

(以上9名分)



あびこだより 1 号

漂流民大黒屋光太夫

— 日口外交と拉致問題一考 —

三谷 和夫

大黒屋光太夫は天明二年(一七八二)十二月九日、貨物船の船頭として伊勢の国白子浦(現三重県鈴鹿市白子町)を出航した。時に光太夫32歳。乗組み17名。千石積で紀州藩の米五百石、江戸への木綿などを積んでいた。遠州灘では激しい暴風雨にあい太平洋を漂流し北上して翌年七月にアリウシヤン列島の小島アマチトカ島に漂着した。

ここで丁重に世話されるが船は大破する。在島4年寒さと疲労と栄養失調のため、これまでに8名病死。光太夫らは本国へ帰国を望むロシア人たちと、難破船の古材、流木を集めて船を作り、カムチャツカ半島に渡る。土地の長官に救われたが、大飢饉にあい、さらに3名病死。天明八年六月帰国の許可を求めてカムチャツカ発、オホーツク海を渡り、オホーツクに着く。レナ川の町ヤクーツクを経て翌年二月イルクーツクに着く。ここで大学教授キリル・ラツクスマンと知り合う。庄蔵は凍傷で片足を切断、新蔵は大病、九右衛門は病死。

寛政三年(一七九二)イルクーツクで、帰国の嘆願書を都3回出したが成功せず、皇帝に帰国を直訴するため、ラツクスマンに伴われ、一月十五日八頭だての馬そりで飛ぶような速さで、シベリアからロシアの大草原を横断、首都ペテルブルグへ二月十九日着。帰国願いを差し出す。五月二十八日女帝エカテリーナ2世に拝謁。首都の名所などを見学、皇太子、大臣、貴族らに優遇され、人気を中心になる。九月二十九日帰国願いが正式に許可される。

十一月ペテルブルグ発、土産物をそりに満載して帰国の途につく。寛政四年(一七九二)一月イルクーツク着。4ヶ月滞在、新蔵・庄蔵と別れる。

九月キリルの子アダム・ラツクスマン訪日修好使節として光太夫、小市、磯吉の3名を伴い、オホーツクの港を船で出発。十月七日根室着。四月小市病死。

寛政五年六月二十日ラツクスマン一行函館を経て松前着。

六月二十一日第1回日口会談、同二十四日第2回会談、光太夫、磯吉日本側に引き渡される。

九月將軍家斉、光太夫らを見、寛政六年光太夫、磯吉江戸番町薬草園内に居をもらい永住する。

同十年磯吉、亀山藩におあずけの形で1ヶ月間帰郷が許される(母見舞い)。

享和二年(一八〇二)光太夫40日間帰郷が許される(伊勢神宮参拝など)。

文政二年(一八二八)光太夫病死、78歳。

天保五年(一八三四)磯吉病死、73歳。

嘉永四年(一八五二)光太夫の子大黒梅陰(亀二郎)死去(光太夫の跡絶える)。

光太夫の人物と業績

・ペテルブルグへ携行した蔵書：浄瑠璃本・節用集など十冊以上

・寄遇した植物園長の妹ソフィアとの交流、ソフィア作の歌、流行(かえ歌)

・ロシア語に通じる、筆跡、万国語辞典の改訂に参加

・蘭学者桂川甫周(將軍侍医)、大槻玄沢(著書改訂)との交流

・鷹見泉石(古河藩家老)、渡辺崋山らがロシア語を学ぶ

・蘭学者の宴会で主賓となる

・結婚、一男一女、亀二郎は大儒となる(結婚せず)

○拉致問題一考

新蔵、庄蔵、イルクーツクに永住、北朝鮮による拉致は不法であり許されるべきでない、5人のみ帰国した。両者とも異国にて日本語教師として利用されたようだ。光太夫らは日本語教授に功あり、著作などに貢献した。本人の帰国希望に結婚問題が関係することあり。

○エカテリーナ2世について(ペーテル大帝など)

懐かしの北京の想い出(その3)

伊藤 一男

①「自由主義国・日本はもつと自由を!」、「社会主義国・中国はもつと統制を!」

前回は少し臭い話でしたので、もう止めて、今回は代わりに経済のお話をしましょう。

鄧小平が文化大革命で荒廃した経済を立て直すために始めた改革開放は、「大胆な外資の導入を通じて沿海部が先に豊かになり、やがてみんなが豊かになる」としてきたいわゆる「先富論」です。一部の人が先に金持ちになるとしても、貧しい人たちは生活が少しずつ良くなったし、「もう少し待てば、自分たちも豊かになれる」と当初はある程度の格差が生じるのは止むを得ないと、あまり不満は目立たなかったのですが、しかし改革開放40年を迎える今年になっても貧富の格差は縮まるどころか、格差拡大に歯止めがかからなくなっているようです。事実、我が国の億万長者はるかに凌ぐ、巨万の富を築いた大豪が中国で続々と出現しています。これでは鄧小平が唱えた「先富論」の正当性すら揺るぎかねません。

中国は共産党一党独裁の社会主義国です。かつては「貧しくとも平等に」が中国の理念であったはずですが、毛沢東以来政治体制は共産主義であつても、経済面では何かと統制を嫌う中国人には社会主義経済は馴染みません。「上に政策あれば、下に対策あり」と言われるように、国民は政府のいうことに従っているように見せかけ、その実いろんな抜け道を考え出します。

二十年前も昔の話ですが、私が北京にいた頃、ある日本通の中国人が言うには、「日本は社会主義国の模範生である」と。もちろん皮肉を込めての発言ですが、確かに日本人は個人も企業も完全な自由よりむしろ柔らかく拘束されている方が好きなようです。個人活動よりもグループ活動を好み、ほとんどの国民が中流階級意識を持ち、少々ハメをはずすときでも、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」式の行動パターンです。

メーカーや銀行でも「〇〇工業会」や「△△協会」といった団体を作りました。経済産業省や財務省に守られた護送船団方式は、外国でもつとに名を馳せています。

北京にいたころの昔から、私は「自由主義国・日本はもつと自由を！」「社会主義国・中国はもつと統制を！」と叫んでいましたが、それは今も変わっていません。

②「日の丸、君が代」に胸が熱くなる日本人、国籍にこだわらない中国人

私が勤務していた北京の研究所の若い研究者は、どういうツテがあつたのか知りませんが、ニュージブラントへ長期滞在のため旅立ちました。「いずれニュージブラント国籍を取得するつもりです」と淡々と将来の抱負を述べたのでした。また、私の知人である中国人の大学教授夫妻は、すでに息子さんがオーストラリアに滞在して国籍も持っているとのこと、自分たちもいずれ老後はオーストラリアに渡りたいとのことでした。

どうも中国人の生き方はわれわれ日本人とはまるで違うようです。だいたい中国人は、国とか政府とかをあまり信用していません。ですから、中国人は事を成すときは国に頼らず、ひたすら血のつながりや資本のつながりを基に世界的なネットワークを組むのです。そして絶えず情報交換を繰り返しながら、利益が生まれる可能性があるところには場所を選ばず、国外にも平気で出かけて行き、そこに根を張ってしまうのです。血縁や資本で結ばれていけば、中国人にとつては国籍はさほど意味を持たないでしょう。ですから中国人は世界中のいたるところにチャイナタウンを築き、特に東アジア諸国では華人が経済を牛耳っているのが現状です。

その点、われわれ日本人には中国人の生き方は馴染めません。日本人は、自らの国がこれからも大きな発展や成長は期待できないと予測する人が大勢を占めています。それでも「日本が好き」と答える人の割合は七割を超えているといえます。確かに、私の経験からしても、故国から遠く離れた異国の地で日の丸の旗

を見たり、君が代を聴いたりすると胸がジーンと熱くなります。日本という国籍を捨てることなど、私にはとてもできそうにありません。

時まさに平昌冬期オリンピック。フィギュアスケートの羽生選手やスピードスケートの小平選手らが金メダルに輝き、表彰式で君が代が流れ、日の丸の旗が上がるのをテレビ観戦していると、ますますその思いが強くなります。(つづく)

「嘉納先生」杉村楚人冠(昭和一三・六・三「柔道」)

楚人冠全集 第十六巻に表題の文章が収載されているので原文(旧かな)のまま転載する。昭和13年5月に嘉納治五郎が亡くなったことで、講道館が楚人冠に追悼の文章を頼んだものと思われる。

嘉納さんが我孫子に見えられた時は、講道館の総大将でもなく、大教育家でもなく、貴族院議員でもなく、実にもはやさしい一個の好々爺であつた。いつもここにこして村の人々に接し、まめやかに村の問題に世話をやかれた。村の人からも又そんなごえらい天下の名士として奉られるよりも、寧ろ村の先輩として、嘉納さん嘉納さんと親しまれたのである。

昨今やうやく住宅地として注目さるゝやうになつた千葉縣の我孫子は、全く嘉納治五郎先生に依つて開かれたやうなもので、遠く明治四十四、五年の頃に、此処へ目をつけて別荘を構へたのは、本町の島久商店の主人が第一番で、嘉納先生がその次であつた。この二人はいはゞ我孫子の開山であつた。

先生の別荘は私の宅と近いので、先生が私の方へお出向きになつたこともあり、私の方から伺つた事も度々ある。さういふ時の嘉納さんは國家的世界的のさまざまの事業に關係して居らるゝ方とも覺えぬ好々爺ふりであつた。

和七年か八年の正月四日、少し話があるから、晝飯を一所にするつもりで來いとお使があつた。さういふ時酒盃を擧げながら、わしも年を取つたら一つあういふ事をしたと思つてゐるなど言はれた。奥様が

側から、そんなにお年を召してゐながらまだそんな事を仰しやると笑はれたら、嘉納さんはこりともせず、いやもつと年を取つてからの話だと應酬された。老いて益々壯(さかん)なりとはこんな事かと、私は感心した。

或る朝急に用が出来てお尋ねしたら、只今朝御飯中だから、喰へながら會はうとの事であつた。話をしながら先生の食事を見てみると、茶をのみ、玉子をたべ、魚をたべ、パンをたべ、健啖實に壯者を凌ぐものがあつた。丈夫な筈だと思つた。その前帝國ホテルで外人の前で柔道の講演を行つた時、最後に門下生を相手に柔道の型を演習してみせられたことがある。演習中は例の流暢な英語で滔々と説明を加へられたが、あの年であの激しい運動をしながら、息一つ切らずに平然と外國語を使はるゝには驚かされた。われわれの遠く及ばざる境地をまじまじと見せられた。健啖も故あるかなと思つた。

我孫子上野間の汽車の中でお會ひした時など、諄々と物やはらかな京阪辯交りで、我孫子の發展策などを話された。あれ位いろんな事業に没頭しながら、その上にまだ我孫子の事まで懸念して居らるゝかと、いつも頼もしく思つた。

嘉納さんは外套を着ることが下手で、我孫子で汽車を下りようとすゝる前など、妙な格好をしてまごまごしてゐられた。その度毎に私は着せかけて上げた。先生は非常に恐縮したやうな顔つきで禮をいはれた。

—その温容も今は見る事が出来ない。私は我孫子の住人の一人として特に哀惜に堪へない。

ヨウコウザクラ

陽光桜、花は淡い紅紫色の一重咲で、大輪。
花期はソメイヨシノより早咲き。
世界中で平和のシンボルとして植樹されている。
バラ科 寄附者

我孫子の文化を守る会

平成29年度 No. 9

文学掲示板

平成三十年五月展示作品(文学の広場)

私財投じ 駅招致せし 飯泉喜雄に

明治の人の気骨を憶ゆ

我孫子 山崎 日出男

親しみしかの世界史の教科書の

書かれし家かゆかしみて入る

春日部 佐々木 かづ子

ポツポツと葉にあたる音うす陽さし

迷いてとりこむ今日の干し物

流山 高森 恵子

この年もトライアスロンに挑む汝を

応援せむと沼の辺に立つ

我孫子 三谷 和夫

ラジオにてとぎれかすれし玉音や

焼けつく蟬の終戦の歌

流山 田口 藤造

灼熱の赤燃えたたせハイビスカス

一花散りては明日への一花

流山 宮坂 叔子

楚人冠俳句 「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

歌

冬がれの片かは町に夕日さし

喪章つけたる看護婦のゆく

病める母とラヂオの小唄聴くゆふべ

この唄を聴きし旅をしぞ思ふ

朝露をかけたつゆけば袖にかゝる

霧の雫にたゞよふ霧の香

朝晴の銀座通をわがゆけば

交叉点の上を飛ぶ赤とんぼ

今後の行事予定

「放談くらぶ」

日時 4月7日(土) 14時〜16時

会場 アビスタ(我孫子地区公民館)第2学習室

講師 三谷 和夫氏(当会元会長)

演題 「漂流民大黒屋光太夫

―日口外交と拉致問題一考―

◎参加費 会員無料 非会員二〇〇円

申込みTEL&FAX(七)一八五〇六七五 佐々木まで

(6ページ「あびこだより」参照)

「散歩部会」

日時 3月18日(日)第129回史跡文学散歩

「旧我孫子宿を歩く」(詳細は前号に掲載)

9時、我孫子駅南口階段下集合。(小雨決行)

□ プロジェクト「巨木クラブ」予定

「樹木観察会」

第14回 3月16日(金)

印西市松虫寺

我孫子駅改札 8:30 集合―我孫子 8:36―新松戸

9:01―東松戸 9:19―9:24 北総線印旛日本医大前駅

↓松虫寺↓舞姫公園↓印旛日本医大―我孫

子 13:30 頃(日本医大前―松虫寺まで 1.4km・徒歩

30分、松虫寺―舞姫公園まで 1.2km)

第15回 4月13日(金)

船橋駅周辺

我孫子駅改札 8:30 集合―我孫子 8:36―柏東武線

8:52―9:23 東武船橋駅―船橋大神宮↓西福寺↓日

枝神社↓道祖神↓東町意富比(おおひ)神社↓長

福寺↓稻荷神社↓夏見日枝神社↓薬王寺↓塙塚

稲荷(船橋中学西南)↓東武船橋駅―我孫子 16:00

頃(移動距離 6.0km・移動徒歩時間2時間45分、行

程時間約4時間30分)

第16回 5月18日(金)

船橋市薬円台周辺

我孫子駅改札 8:30 集合―我孫子 8:36―8:50 松戸

新京成 9:01―薬円台 9:37↓俱利伽羅不動↓正伯

公園↓薬円台公園↓二宮神社↓御嶽神社↓新京

成前原―松戸―我孫子 16:00 頃(移動距離 6.0km・

移動徒歩時間2時間45分 行程時間約4時間30分)

第17回 6月15日(金)

土浦市亀城公園周辺

我孫子駅改札 8:30 集合―我孫子駅―土浦駅↓亀

城公園↓未定

□ プロジェクト「短歌の会」予定

3月27日(火) 13時〜第十回短歌の会

けやきプラザ 10階小会議室

□ プロジェクト「関東建築探訪」

日程未定

上野公園 ・動物園・子供図書館・西洋美術館

・黒田清輝記念館 等

編集後記 冬季五輪は予想以上(?)の盛り上がりで閉

幕した。個別には金メダルが期待されていて獲れた選手

と獲れなかった選手などいたが、メダルの獲得数では13

個と過去の記録を超えた▲フィギュアスケートの羽生選

手が連覇を果たした二月十七日、日本では将棋の藤井

聡太が公式戦最年少優勝記録を更新した(十五歳六ヶ

月)。羽生(将棋)が敗れ、羽生(スケート)が勝つたなど

ややこしいジョークもあったが、翌日の朝刊各紙はこのふ

たつの快挙を大きく報じた▲転じて時はまさに入試の真

最中。運動系か学問系か?進路に悩む受験生もいるか

も知れない。この二つを比較して単純に肉体派と頭脳派

に区別するのは当たらない。一芸に秀でていれば他の分

野でも成功するに違いない。両者が共に必要とするのは

「記憶力」と「メンタルの強さ」と思われるから。(美崎)